

モデル事業名	耕作放棄水田の維持管理と有効活用および自然公園の整備事業
活動団体名	滝寺まちづくり協議会、滝寺町内会、滝寺農区・農家組合
ホームページ	
所属／担当者名	上野 弘（滝寺まちづくり協議会）
連絡先	025-524-2870、ikarashi@y7.dion.ne.jp
活動地域	新潟県上越市滝寺地区

● 活動地域の概要

- ・ **当地区** : 古くからの農村地帯。中山間地域に位置づけられている。
- ・ **町内** : 260世帯。旧村と2つの飛び地となる団地（それぞれ自治組織で運営）を抱えている。
- ・ **旧村となる集落** : かつて200世帯を上まわっていたが、現在は88世帯である。世帯数の減少と少子高齢化のため農村の機能は低下し、手入れのできない山林はもとより耕作放棄の水田や畑が非常に多く存在する。
- ・ **当地区の概況** : ミズバショウや絶滅危惧種のオオニガナの自生地があり、里山公園として上越市民から長く親しまれてきている愛の風公園がある。また、町内で守り続けてきている上杉謙信公ゆかりの毘沙門堂や、広く信仰の対象として守り継がれてきた滝寺不動尊もある。また、当町内の氏神様としての諏訪神社は町民全員が氏子であり8月27日の例大祭には神楽が奉納され、青年会や自治会が担当する出店が出され賑やかである。
- ・ **滝寺まちづくり協議会** : 平成5年に町内の自主的ボランティア組織として結成された。2つの団地住民も自然保護・伝統文化の保護に積極的であり、「滝寺まちづくり協議会」に積極的に参加し、ミズバショウや絶滅危惧種オオニガナ自生地の保護・愛の風公園の再生・管理活動を行っている。
- ・ **町内と協議会の関係** : 町内会は協議会発足以来年間30万円の活動助成を行い、その活動を支援してきている。



【位置図】左：新潟県での位置

右：【町民とまちづくり協議会が管理してきた愛の風公園】

中央：【耕作放棄水田：滝寺集落開発センターが見える】

● 活動地域の課題

- ・ 農家の高齢化と高後継者不足のため休耕田が多数出現してきており、耕作放棄された田は原野化し始めているところも多数見受けられる。休耕田が原野化しないよう維持管理を工夫する必要がある。
- ・ 自然や伝統文化も当地区の農区・農家組合が主体となって守り継いできたものであるが、農家の後継者が激減している今、農家にだけ頼っている維持管理が困難となった。非農家もバックアップできる体制作りが必要である。
- ・ 今までに行なってきたミズバショウ自生地の保護・愛の風公園の整備維持管理・毘沙門堂維持管理・里山の維持管理や赤道の管理・市委託のふるさと道の管理等を、町内会・農区農家組合・まちづくり協議会が協力して行う体制作りが急務である。
- ・ 少子化の影響で子供への文化伝承ができにくくなっている。子供会を中心に町内一丸となって次世代を担う人づくりを行わねばならない。合わせて、地域コミュニティーの活性化を図る必要がある。

● 活動の内容

- ・ **平成21年度**
- 1、今まで活動してきたことを充実させ各組織の結束を図ると共に、町民の意識を高め地域コミュニティー活性化への動機づけを行う。
 - 赤道（古道）の復活、水芭蕉自生地の木道整備、毘沙門堂石段の修復、愛の風公園の整備 など
- 2、耕作放棄水田をいくつか復活しビオトープ化するとともに田や畑としての利用も視野に入れることで、次年度からの活用を子供会や小学校・保育園を交えて企画し、人づくりを中心としたコミュニティー活性化につなげる。
 - 原野化の始まった休耕田の復活とビオトープ化
 - 他の休耕田の借り上げを交渉し、子供会等での米づくり、わらの利用、畑作などへの利用を検討する

● 活動の成果

・平成21年度

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

1、活動の経過と内容

(1) 修復・整備活動

- ・ 赤道復活、水芭蕉自生地の木道修理、毘沙門堂石段修復、愛の風公園整備（不要木伐採、下草刈り、芝生の草取り、松葉掃き、枝打ち等）

(2) 耕作放棄水田のビオトープ化および休耕田の利用

- ・ 休耕田地権者への説明会、原野化した休耕田の草刈り作業、田んぼ復活作業

(3) 自然保護活動

- ・ 水芭蕉の種の採集と育苗活動、絶滅危惧種オオニガナの播種・育苗活動、オオニガナ自生地の草刈り作業
- ・ 別の絶滅危惧種「アギナシ」の自生確認

2、参加者数と延べ人数（「新たな公」に関する活動に限定）

参加者数 66名 延べ人数 200名

3、他機関等との連携

- ・ 信州大学教育学部土井進教授を招聘しての地域コミュニティー活性化についての講演会実施：2月14日
- ・ 元上越教育大学教授長谷川康夫先生を招聘しての自然保護についての講演会実施：1月31日
- ・ 飯小学校・ほたる保育園へのビオトープ活用や学校田としての活用のはたらきかけ
- ・ NPO法人「緑とくらしの学校（森の幼稚園「てくてく」を運営）と連携した耕作放棄水田での稲作活動

4、地域内の反響

- ・ 町民はまだ理解が浅く活動が受け身である。今年度は地道な活動のみに終始したためであろう。気軽に参加でき、参加したことで理解が深まるイベントを年数回企画して、浸透させていくことが必要と思う。
- ・ NPO法人「緑とくらしの学校」からの活動への参加要請があり、今後企画段階から参加してもらう予定。



● 今後の課題及び展望

・課題

- 1、町民のモチベーションを高め、活動効果に対する実感を持ってもらうイベントを企画・立案・実施する必要がある
- 2、町内会、農区・農家組合、まちづくり協議会、他団体、関係機関の活動における役割分担を明確にし、責任の所在をはっきりさせていくことが必要である。
- 3、次年度の活動計画（イベントも含めて）を今年度のうちに企画立案することが必要である。
- 4、活動費獲得のための方策を探る。その一つの策としてまちづくり協議会のNPO法人化を検討する。

・展望

- 1、滝寺子供会の活動を中心に据えた年間活動計画を立案し、次代を担う人づくり、歴史と文化を伝承する人づくりの視点で町内会、農区・農家組合、他団体、関係諸機関がどのように関わるかを明確にする。
- 2、ビオトープを活用した自然観察や体験活動を企画し、町外の人に参加を促す。
- 3、ビオトープの利活用について他団体の企画で実施できるような方向にも道を開く。（使用料等の導入も）